

8. 構造物モデルを活用した確認・照査

■ 鉄筋の干渉チェック

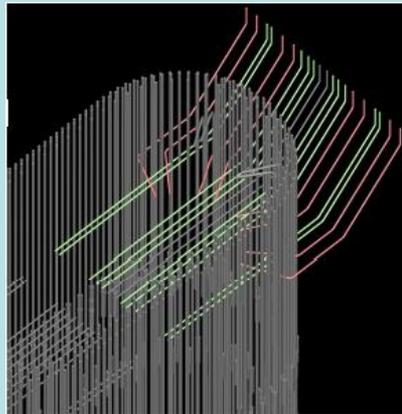
【実施内容】

過密配筋となる箇所における鉄筋同士の干渉を構造物モデルを用いて確認した。

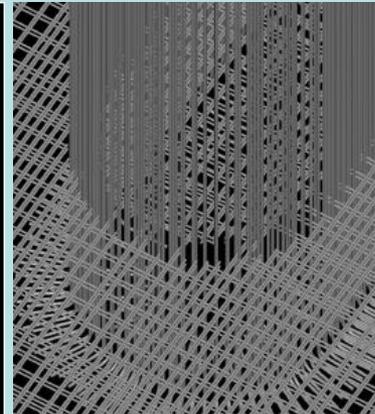
【効果】

梁やフーチング鉄筋との干渉可否を容易に確認でき、照査の効率化に繋がった。また、干渉が確認された箇所は事前に設計図面を更新したことで手戻りの防止に繋がった。

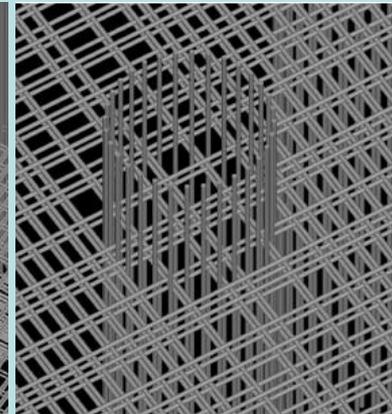
【必要スキル】 ①3次元CADの操作



柱と梁下面の接合部



柱とフーチング上面の接合部



杭頭部

■ 付属物の干渉チェック

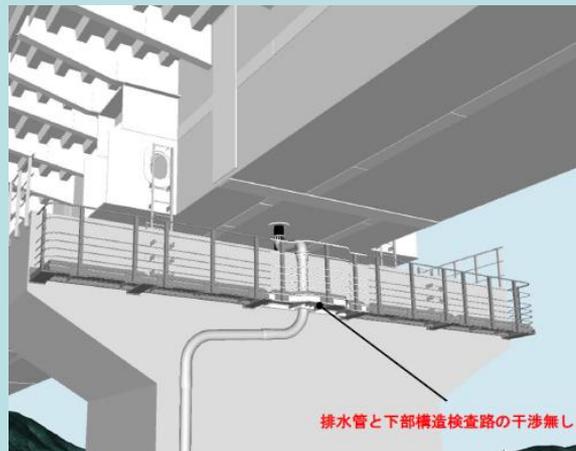
【実施内容】

検査路や排水管等の橋梁付属物について、設計結果に基づきモデル化し、主部材や他の付属物との干渉チェック、配置位置の妥当性を確認した。

【効果】

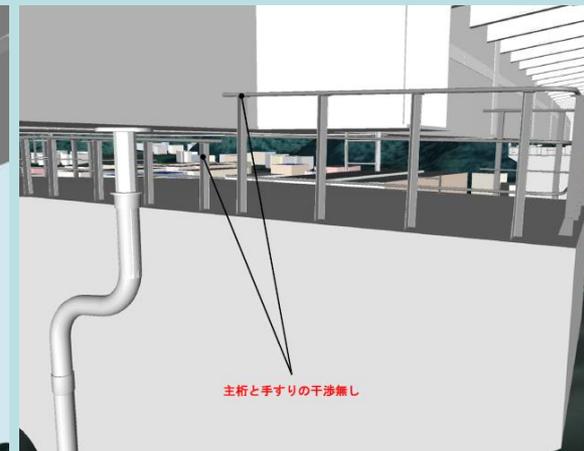
各部材との干渉可否を容易に確認でき、照査の効率化に繋がった。また、実際の部材形状を再現したことで、製品発注時に活用でき、次工程の効率化に繋がった。

【必要スキル】 ①3次元CADの操作



排水管と下部構造検査路の干渉無し

排水管と下部構造検査路の干渉チェック



主桁と手すりの干渉無し

主桁と手すりの干渉チェック